

# 研推だよりNo.5



令和4年  
6月14日  
研究推進部会

先週月曜日に、**今年度1回目の研究授業**として、高学年分科会から5年生の中島が実践を行いました。授業に至るまでには高学年分科会の先生方には何度も検討を重ねていただき、たくさんご準備いただきました。高学年分科会の先生方、ありがとうございました。1回目の授業ということで、まだ研究の方向性も十分に定まっていない中の授業でしたが、**授業後の協議会では活発な協議をしていただきありがとうございました** 以下、協議会の記録です。ご覧ください。

## 1 第1回研究授業報告（記録：低学年分科会）

### 1 校長挨拶

- ・今年度1回目の研究授業、よろしくお願ひします。教職員みんなで研究を深めていきましょう。
- ・講師の石出先生には、4月の全体会の引き続き教えていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 2 分科会提案（高学年分科会）

- ① 知識構成型ジグソー学習を取り入れることにより小集団内で予想したり考えたりする資料、及びそこから得られる情報を各自で分担することにした。それにより児童は、最初に自分が考える内容を1つのことに限定・明確化し、集団の相互作用の力を借りながら自分なりの考えを自己調整し、さらにふかめられるようにした。
- ② 「思考を深める手立て」として「コア・マトリクス」という、「思考ツールを活用」することにより、自分の考えを外化・可視化させ、児童同士の対話を活性化できると考えた。
- ③ プレゼンテーションソフトを活用しました。各自、自分の分担する情報を読み取り、まとめる際に使用した。プレゼンテーションソフトは同一グループ内での共同同時編集が可能であるため、一人一人が読み取った情報を同時にまとめていくことができるので、その点が生かせるよう今回活用した。

### 3 授業者自評（中島）

- ・発表と集約を区別すべきだったと思っています。
- ・ICTの活用としては、プレゼンテーションソフトを活用して、友達と調べたことを伝え合う。
- ・マスターグループの作業は整然とできた。
- ・今日のホームグループでの作業は予想外にスライドが多くなり、子供たちの作業が煩雑になってしまった。そこで考えることが途切れてしまったようにも感じる。

### 4 協議

発言者	内容
中学年	補足資料の課題と学習課題が違う、どっち？
中島	→なぜか→どのように 学習問題と今日の内容は正対しない
低学年	文字打ち込みツールは特別支援的に便利だった。

中島	全体的の大まかな概要をつかむためにはジグソー学習が有効
板場	タブレットが使えない・・・苦痛・・・という部分は使い慣れていかないといけないことだから、今後続けていかなければいけないのではないかな。
山中：	教科教育のねらいを達成するためのものと考えたと、そこを中心とするわけではないのでは。
板場	苦手だから使わない、となると可能性も広がっていかない。
マツダ	ツールとしての ICT がどの程度効果的であるか、実証的に検証していく必要がある。
小松	キーボー何級か、などで、数値的にも確認ができるのではないかな。
中島	ICTの活用はやる・やらないの択一ではなくて、できない児童には支援ツールを提示するなど、細やかな配慮が必要であると考えられる。

## 5 指導・講評 (講師：東京女子体育大学 准教授 石出 勉先生)

### 1. 授業について

- ・机を大きく動かして移動するのに1分しかかからなかった。とても素早い。
- ・普段の授業規律、学習に向かう態度がしっかりとしていることは、アクティブラーニングなど動きのある授業にはより一層必要であることが分かった。
- ・ジグソー法について

①全体像を見て、自分のパートをしっかりと解決できることが大切。

②今回については、それぞれの児童が自分の調べたものを発表し、他の子がそれを聞いて核に迫る内容を説明していた。

③初めからまとめ(集約)の画面に入力しておけばよかった。

- ・過程を共有することも大事なので、ICTを活用することでそれが可能となる。
- ・発表しながらも、他の子の意見を同時に見ることができる。

### 2. ICT活用のスキルについて

- ・今まで紙でやったときとノートでやったときとを比べてどうか。

→(授業者)今は紙とペンの方が速い。しかし、ツール・文字入力などの慣れが必要である。

- ・1分間に30文字以上の入力ができる能力があるとよい。それ以下の場合は、画面に手書きで書く方が速いという人もいるだろう。
- ・中学生では50文字/分。毎日10分間、アルファベット入力を練習していると、1学期間くらいに30文字をクリアしているというデータが挙げられている。
- ・紙か、タブレットか、今後どうするか。日常生活、社会人の当たり前として情報機器の利用が必要になる。就職のエントリーもWeb登録になってきているし、そういったICTの活用スキルも必要不可欠な要素と考える必要がある。・大学では、紙のノートを使っていない学生も多い。

### 3. アクティブラーニングについて

- ・ラーニングピラミッド(1週間後に知識が残るかどうか)

5%人から教えてもらったこと

10%自分で本を読んだこと

20%見たり聞いたり

30%実演してもらったこと

\_\_\_\_ ↑受動的 \_\_\_\_ ↓能動的 = アクティブラーニング \_\_\_\_

50%グループで話し合ったこと

70%自分で体験したこと

90%人に教えたこと

時間はかかるが、残る学習をするべき

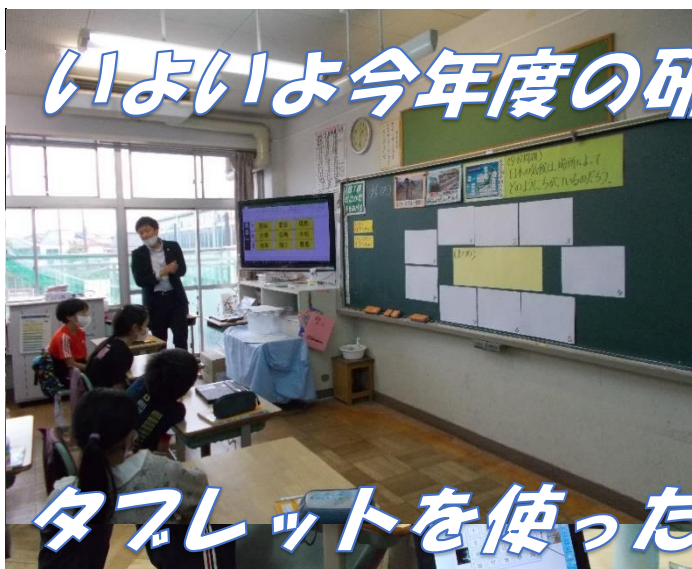
アウトプットしなければいけない学習は、能動的になる

- ・少しずつ取り入れていくと子供たちが慣れていくし、慣れていくと今日みたいな操作上の混乱は解決できる。
- ・ある程度の人数がいる時にグループワークをするといいのではないかな。  
テストと学び合いを組み合わせたもの

#### 4. 知識の壁 行動の壁 気づきの壁 技術の壁 習慣の壁

- ・知る→分かる→できる→している
- ・知らないを知らない（知らないの壁）知らない（知識の壁）知っている（行動の壁）やってみる（気づきの壁）わかる（技術の壁）できる（習慣の壁）している（ここまで来て、深い学び）知らないを知らない、勉強しない、知ろうとしない

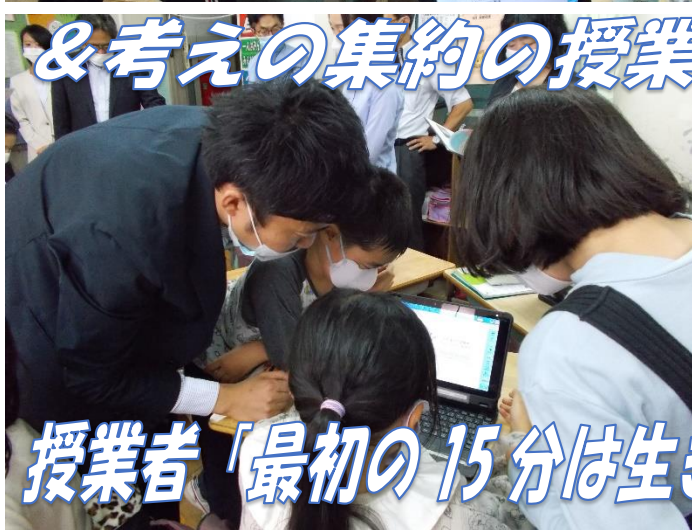




**いよいよ今年度の研究授業がスタート！**



**タブレットを使った、調べたことの発表**



**& 考えの集約の授業でした**



**授業者「最初の15分は生きた心地がしませんでした」**



**先生方、協議会では積極的な話し合いをありがとうございました！次回もよろしくお願いします。**



**次回予告 第2回研究授業**

日時：7月4日（月）13：25～

提案：低学年分科会

授業者：2年2組 水流先生

単元：生活科「やさいの大きくなるひみつ」

※授業&協議会準備は「すずかけ分科会」になります。よろしくお願いします。